

女性同窓生エッセイ一期一会  
第10回 竹花真理子さん（78期）

1. 関東同窓会との最初の出会いやきっかけ

関東同窓会には、最初は大学生の時総会に出席したと思いますが、その後暫く海外に住んでいたのが離れておりました。たまたま何かの機会に、関東同窓会でハヤブサのエンジン開発に関わった方が同窓生で、その方の講演があるというのを知り、久々に参加をしたいと思ったところ、その年は78期が運営の副当番なのでお手伝いをして欲しいという連絡を頂き、参画することで同期の皆さんや諸先輩後輩の皆さまと再度つながる機会を得ました。

2. 関東同窓会に想うこと期待すること

同窓生の皆さんの経験を通して色々なことを学ぶ（ハヤブサのお話や、赤松小三郎など）機会や、世代や性別を超えて色々なネットワークが作れ、それが広がる場になればよいと思います。

3. 高校時代一番の思い出

印象深い思い出がたくさんある高校時代でした。クラス担任は体育の久保田先生で、クラスでの課外活動をよく認めて下さった先生だったので、クラスで春は上田公園でのお花見会、夏はキャンプ（担任同行で1泊可。先生が寝られてから皆で飲んだり食べたりしながらおしゃべりするのが定番）、秋の学祭など、クラスメイトとかけがえのない時間を過ごせたと思います。勉強も特色のある先生が多く今でも色々な授業や先生のお話などを思い出します。地学の先生が授業として上田の地層見学を企画して下さい、上田近郊の地質に初めて接したことや、1年の政経の試験では問題を黒板に担当の先生が書き、回答用紙としてわら半紙が配られたとか、体育の夏の水泳の課題が50mメドレーリレー（どんな泳ぎ方でもよいけど4種目—バタフライはできないので犬かきしたり…）とか、化学の先生の最後の授業は長野県のお酒の説明でした（一応飲むのは20歳になってからとはおっしゃっていましたが）。

この文章を書いている思い出したのですが、3年次に校門から木造校舎のあたりまでが映画撮影に使われ、同級生もエキストラ参加（確か柔道大会の場面とかで、男子生徒のみの参加でした）したのですが、当時の校舎や同級生がどのように映っていたのか、いつか見てみたいと思っています。

4. 近況など

一時期はかなり仕事中心の生活をしていて、ストレスも高くてちょっと体調を崩しかけたのと、体力も落ちてしまったというのを痛感したので、生活を変えようと決心。コロナなどの影響もあり、まだ予定した通りには進んでいませんが、人生は楽しまなければと思い、ここ数年で、仕事も生活も自分が楽しんでできることに変えつつあります。

もともと旅が好きなので、これからの人生で行きたいところをリストしつつその場所を訪ねています。その一つで、2019年にペルーのマチュピチュや地上絵を見に行きました。全てが好天に恵まれて素晴らしく、また不思議な遺跡や自然に接することができました。また去年は、東京オリンピック期間にバレーボール競技会場でVIP（IOCや関連スポーツ協会や政府の方など）対応のボランティアをしました。競技時間がたぶん一番長い種目で大変でしたが、男子の最終日メダル授与まで観ることができ、凄く感動しました。



マチュピチュにて



東京オリンピックバレーボール会場で  
VIP 対応のボランティア